

緊急地震速報の利用の心得について(試案)

平成17年12月15日

検討会事務局

緊急地震速報を伝達された住民等が、適切な危険回避行動をとるためには、緊急地震速報そのものに対する理解を増進するとともに、情報を入手したとき取るべき行動についての「心得」を示すことが重要である。

このため、住民や施設管理者等が緊急地震速報を受信するさまざまな場面を想定し、家庭で緊急地震速報を受信したとき（テレビ・ラジオ、防災行政無線等による受信）、多数の集まる施設（大型商業施設、映画館、競技場、駅など）で緊急地震速報を受信したとき、屋外（道路、地下街など）で緊急地震速報を受信したとき、自動車を運転中に緊急地震速報を受信したとき、のそれぞれについて「心得」を作成する。

緊急地震速報の利用の心得

1 家庭での心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（大きな家具からは離れ、丈夫な机の下などに隠れる。あわてて外へ飛び出さない）
- ・余裕があれば火の始末、扉を開けて避難路を確保する
- ・揺れがおさまったら、落ち着いてテレビ・ラジオなどから正確な情報を入手する
- ・津波の心配がある地域では、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに高台（津波避難場所）へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

2 多数の集まる施設での心得

（1）施設管理者の心得

- （「施設利用者等への放送等による呼びかけの基準」、「施設利用者等に混乱を与えないような呼びかけ方法」等について、「緊急地震速報の情報内容について」の検討結果を活用し、また、各施設管理者が有する災害・事故発生時の対応マニュアルを参考に心得を作成する。）

（2）施設利用者の心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（あわてて出口・階段などに殺到しない。吊り下がっている照明などの下からは退避する）
- ・揺れがおさまったら、落ち着いて正確な情報を入手し、係員の指示に従って行動する
- ・津波の心配がある地域では、揺れがおさまったら係員などの指示に従い津波警報発表の前でも直ちに津波避難所へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

3 屋外での心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる。ビルからの壁、看板、割れ

たガラスの落下の備え、ビルのそばから離れる（離れることが困難なときはビルの下に避難）

- ・揺れがおさまったら、落ち着いてテレビ・ラジオなどから正確な情報を入手する
- ・津波の心配がある地域では、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに高台（津波避難所）へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

4 自動車を運転中の心得

- ・急ブレーキは踏まずに、ゆっくりスピードを落とし道路の左側に停車（後続の車が情報を聞いていないおそれがあることに注意）
- ・余裕があればハザードランプを点灯
- ・テレビ・ラジオなどから引き続き正確な情報を入手する
- ・海岸沿いにいるときは、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに高いところへ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）